



謹て年咲新年を

時のき威経凌

夜直健穠飲

ち相加

あまし

何れ

之

台

頃

之

経

お

怪



に事なきを以て我々の責任を負ふ
おぼやけ、併し其の旨多し
殆どを重くし自然に
道理として我國のあり様が
不批者位に社會に道徳
を教ふる概然あるを以て
國の心軌たる所以に所収
善年を以て其の意を述べ
先づ早に其の書面を以て
らるる舟に乗し出に為掛
と其の研究を重くし其の
其の反駁も同様に其の
あらずして其の採用する
校核多し却て其の
其の支那を以て其の
了解者も其の
其の研究も其の
其の研究も其の
其の研究も其の

白雲野亭下し流す後

後り今あるしかなれ素。

字刃の如き正らざるもの

与る所を實なほどと

若し厚き若くは此に

と下し賜はふ者し老榮

何事と過之と

近の来候より何れも

先の年迄は祝詞

者寸如き他も多

あり事なる好

一白千五

精居の如

大隈伯爵

無心

江戸市平稻田印

近の集候可成候様
先の身元は祝詞
者寸然と仰る事
只、事万好

一日42日

精臣の如

大隈伯爵

英三

東京市早稲田印

大隈重信殿

伯成親殿

英三



東京、橋区、町、其

板部町、中、方

電話
新橋二九一七

江副靖臣